

総合計画市民検討協議会 第4回報告書

(文化・学習部会)

記録者	大沢 直樹	場所	市役所北庁舎第1～3会議室	
開催日時	平成24年3月10日(土) 午前9時30分～正午			
出席者 (9名)	小野澤 せつ子	齊藤 千穂	酒井 千香	内藤 まり
	山内 啓司			
	小柳 淳一	斎藤 麻美	原田 賢	大沢 直樹
傍聴者	2名 ()			

基本目標	Ⅲ 人と文化をはぐくむまちづくり (文化・学習)
基本施策	3 生涯にわたる学習活動
めざすまちの姿(平成33年のまちの姿)	
<p>○市民一人ひとりが学習に親しみ、学習活動を通して活性化したまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民は、市関連事業を統括したコーディネーターに相談することで学習したい内容の事業を適切に案内されます。 ・障害がある方でも気軽に学習の機会が得られます。 ・子育て中の方でも、子どもと一緒に参加できる学習機会が充実し、気軽に参加できます。 <p>○興味のある生涯学習活動を探すことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民は「〇〇をしたい」という相談をすると「□□に学習グループがある」等の施設を越えた適切な案内を受けられます。 <p>○必要な情報は、施設に関係なく得られます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民は、訪れた施設に必要な情報がなくても施設間の連携により、他の施設を案内してもらえます。 	
主な課題	
<p>1) 生涯学習センターの地理的条件を克服すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の拠点となる生涯学習センターは、学習の中核施設でありながら、立地が良いとは言えず、誰もが利用しやすい環境を整えることが課題である。 <p>2) 講座のマンネリ化・多岐にわたる学習ニーズ、学習相談への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市では様々な施設で講座を開催しているが、内容のマンネリ化が見られる。また、良い講座を行っていても、施設間の連携が希薄であり、他施設の事業案内が十分にできないことが課題である。 ・ファシリテーター、サポーターを養成しているが、より効果的に活用する方法を検討することが課題である。 ・多岐に渡る学習活動のニーズに合った支援をすることが課題である。 <p>3) 施設を使う人と使わない人の二極化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設等を頻繁に利用する人と利用しない人が二極化しており、利用しない人が興味をもつPR活動を行い、市民の学習意欲を高めることが課題である。 	

役割分担の考え方

【市民の役割】将来像の実現に向けて自分たち市民ができること、取り組むべきこと

1) 人生を豊かにするために学習への意欲をもつ

- ・行政まかせではなく、「自分で生き方を選ぶ」という姿勢をもつ。

2) 好きなことを見つけて、その興味から学習へ

- ・学習したいことを自ら探し、決定する「自立した市民」を目指す。

【行政の役割】自分たちの取り組みを実現するために行政に支援してもらいたいこと、行政が行うべきこと

1) 学習環境の整備【学習機会の提供と環境づくりの推進】

- ・生涯学習センターの地理的条件を補うため、ちゅうバスをより充実させる等、市民が通いやすい環境を整備する。
- ・生涯学習センターが中核施設としての力をより発揮させる。(他施設の事業内容を総括できるコーディネーターの役割を担う)。
- ・全ての人々が学習できるように、例えば、聴覚に障害がある方には手話通訳、視覚に障害がある方にはガイドヘルパーの利用を多くの事業で可能となるようにする。
- ・幅広い世代が参加できるように、土日・夜間の講座を増やすこと、乳幼児を連れた親子のための芸術・音楽鑑賞会を開催する等、世代のニーズに合わせた事業を展開する。
- ・人を呼び込める施設づくりを心がける。ただし、「人を集める」人気講座の開催も必要だが、社会教育として「やらなくてはならない講座」を引き続き開催する必要もある。また、その施設がどのような役割を担っているのかというセンターの機能を紹介することも必要である。
- ・幅広い分野に対応し、多岐に渡る市民の興味・学習意欲に対応できるようにする。

2) 多岐に渡る市民の学習活動の支援【生涯学習活動の支援】

- ・ファシリテーター、サポーターをより効果的に活用できる体制を検討する。
- ・市民が希望する学習グループの活動状況について、他施設を含め案内できるように施設間の連携を強化する。

3) 情報資料(図書等)を扱う施設の連携【図書館サービスの充実】

- ・各施設は、自らが持つ情報・図書だけではなく、他施設の管理する情報についても極力把握・連携し、他の施設についても案内できるようにし、他の施設を利用するきっかけをつくる。

その他 意見

- ・生涯学習センターは、指定管理者を導入することで講座等の質が落ちる等、心配な面もある。
- ・学校や1歳6カ月健診における読み聞かせ等、読書環境に親しむ環境は充実している。

事務局への連絡事項

総合計画市民検討協議会 第4回報告書

(文化・学習部会)

記録者	大沢 直樹	場所	市役所北庁舎第1～3会議室	
開催日時	平成24年3月10日(土) 午前9時30分～正午			
出席者 (9名)	小野澤 せつ子	齊藤 千穂	酒井 千香	内藤 まり
	山内 啓司			
	小柳 淳一	斎藤 麻美	原田 賢	大沢 直樹
傍聴者	2名 ()			

基本目標	Ⅲ 人と文化をはぐくむまちづくり (文化・学習)
基本施策	4 文化・芸術活動の支援

めざすまちの姿(平成33年のまちの姿)
<p>○すべての市民が文化芸術活動に親しめるまち ・市民が地域の文化財産に親しみ、誇りを持つので文化財の保護、継承に積極的に取り組みます。</p> <p>○文化芸術活動・歴史文化遺産を通したまちの活性化 ・府中にしかない芸術作品や歴史文化遺産が観光資源となり、全国から人が集まります。</p> <p>○文化芸術活動がしやすい環境と支援 ・活動発表、練習の場が充実し、市民と行政が共に文化・芸術に親しむ環境を作ります。</p>

主な課題
<p>1) 情報発信の充実 ・文化・芸術活動に関する情報をより充実させ、市民の関心を高めることが課題である。</p> <p>2) 文化・芸術活動を深める支援 ・活動の機会、発表や練習の場をより充実させ、市民が文化・芸術活動をしやすい環境を整えることが課題である。</p> <p>3) 人材の育成 ・文化活動を支え、文化を醸成させる人材を育成し、次の世代に伝えていくこと、学び返しの推進を図ることが重要である。</p>

役割分担の考え方
<p>【市民の役割】将来像の実現に向けて自分たち市民ができること、取り組むべきこと</p> <p>1) 文化的財産への関心を深める。 ・ウォーキングを通して市内の文化的財産を回る等、楽しみながら文化的財産にふれあうようにする。 ・市内の彫刻作品等を巡ることで、作品の素晴らしさを認識し、地域の誇りに思うようになる。</p>

2) 地域の方が近くにある芸術作品に親しみ、守る。

- ・人生を豊かにするために、文化的財産を自分たちの手で守っていこうという意識をもつ。
- ・各施設でのイベント開催に、バス乗り場で案内ボランティアをする等、行政と共に取り組む。

【行政の役割】自分たちの取り組みを実現するために行政に支援してもらいたいこと、行政が行うべきこと

1) 鑑賞を深める事業展開をする。

- ・保育所・学校等の鑑賞教室について、きめ細やかな対応を行い、対象者に合わせた鑑賞ができるよう、学校、美術館等の連携を強化する。
- ・視覚に障害がある方も美術作品を楽しめるよう、芸術品に触れて鑑賞する等、一歩進んだ事業を展開する。

2) 市内にある、広く知られていない野外作品をPRする。

- ・野外作品等をスタンプラリーやスポーツウォーキングで巡る等、多くの人が興味を持つ「きっかけ」をつくる。
- ・どのような人に作品を鑑賞して欲しいのかを明確にし、それぞれにあわせたマップを作成する。

3) 魅力的なPR活動をする。

- ・人の集まる商業施設に働きかける等、より多くの方にPRできる環境を整える。
- ・「府中にしかない」ものを積極的にPRする。

4) 他にはない、府中の魅力を打ち出す

- ・歴史的文化遺産の展示について、単に展示し、文字を読むというものではなく、体験型にする等、楽しみながら「武蔵野・府中」を感じる空間として、全国から人が集まる工夫をする。
- ・文化・芸術作品を通して、「〇〇のまち府中」というプロモーション活動につなげる。

その他 提案事項

市民活動を支援する現行の補助金制度では支援対象が多分野にわたっている。市民の芸術・文化活動をさらに推進しまちづくりに貢献してもらうためには、市民の芸術・文化活動をきちんと評価し資金的、人的支援を行えるような市民、事業者、大学、行政、財団等で構成される協議会の設立を検討してはどうか。

事務局への連絡事項

- ・本日検討した基本施策は「生涯にわたる学習活動」と「文化・芸術活動の支援」の2本。
- ・次回は「学校教育の充実」と「青少年の健全育成」について検討する予定。